

3 校務DX計画

文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、次に掲げる事項を重点的に推進する。

(1) クラウドツールを活用した教職員間の情報交換

教員それぞれにIDが割り振られておりクラウドサービスを活用することができる環境になっている。

資料等をクラウド上で共有し教職員間の情報交換に使われているところではあるが学校間での差が生じている。環境は整えてあるため、利便性を周知し活用について働きかけを行っていく。

(2) 校務処理の負担軽減

校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業等をなくす環境を整えるよう整備を進めていく。

(3) 学校と保護者間の連絡手段のデジタル化

児童生徒の欠席、遅刻、早退連絡について、多くの学校でクラウドサービスを利用しているが学校間での差がある。環境は整えてあるため、利便性を周知し学校の主体性を尊重しつつ、実態に応じた活用について働きかけを行っていく。

(4) FAXによる交信の廃止、書類への押印廃止

現状、業務でのFAXによる交信が多くなっている。日常業務での教育委員会からのFAXでの報告は求めないようにしていくとともに、他団体に対しても、FAX以外での報告を求めていく。

押印について、必要な書類はかなり絞りこまれているが、対面でのやり取りが必要なものや重要書類等、押印もしくは署名の方が利便性の高いものがあるため、慎重に検討を行い廃止できるものから廃止をしていく。